

JAWS

1万匹収容もらい手40匹

動物福祉協会
救護センター

アサヒフアミナリ

「ほら、もう大丈夫のよね。ようやく信用してくれたのね。」

フエニガー三代子さんが金網越しに指を差し出すと、その母犬は初めて、ペロペロとなめた。

生まれて間もない子犬5匹と一緒に捨てられていた。ここに来

て10日になる。連れてこられた当初は、全然なつかず、警戒し、

かみついていた。

西宮市北山町の日本動物福祉協会救護センターは、捨てられ

たペットたちでいつも満員だ。ガリガリの体を震わせておび

えている、鳴いているばかりで食べない——など「人間不信」の

状態でやって来る犬やネコも多

い。

三代子さんと夫のウルスさん

が世話をしている。犬・ネコを

中心に、飼われている動物は常

に5匹に上る。土曜日が休みだ

が「忙しくて休めないですね」

とウルスさん。

センターの広さは約千平方

メートル

だ。裏が山になっていて、周りに人家は少なく、鳴き声が迷惑

をかけることもなさそうだ。犬

用の「家」は、全部で36。金網

で仕切られた一つのケージの大

きさは約10平方メートルあり、奥には

屋根つきの「寝室」がある。そ

こに1匹から数匹の犬が放し飼

いされている。別棟には治療室

もある。訪ねた日はケガとカゼ

のネコが入っていた。いま、建

物・鳥たちがやってくる。雑

種ばかりではない。シベリアン

ハスキーやエアデールテリア

など、いまの「ペット・ブーム

のなかで人気といわれる「血統

書付き」もかなりの数になる。

救護センターにやってくる1

万匹のうち、もらい手がつく

のは30匹から40匹にすぎない

(注)。残りはやむなく安楽死

させている。近くに住む獣医の

手で麻酔がされたあと注射で、

という方法がとられる。

この「安楽死」が様々な波紋

を呼ぶ。8年前、「動物福祉、

実は襲殺」などと報道されたこ

ともある。「いまも捨てられ

た動物の収容にいくと、おーい

犬と、あとで殺すんだろ」と

と子どもから時々言われる。悲

しいね」とウルスさん。

この救護センターによく出入

りする同協会阪神支部の松田早

苗さん(三三)は、「安楽死はたし

かに一番いい方法ではないでし

ょう。しかし、野良で生きのび

たとしても、飢えや交通事故・

虐待が待っている可能性が強い

のです。」

飼った以上は家族として天寿

を全うするまでつきあうべき

だ。そうしなくても、どうして

も飼えなくなった時には、安楽

死させるのが飼い主としてせめ

ても責任だと言ふ。

こうした考えに「動物の幸せ

を人が決めるのは勝手」という

批判があるが、「犬・ネコは人

間でも野性でもない中途半端な

存在です。ペットにした人間が

最後まで責任をもつべきだ」と

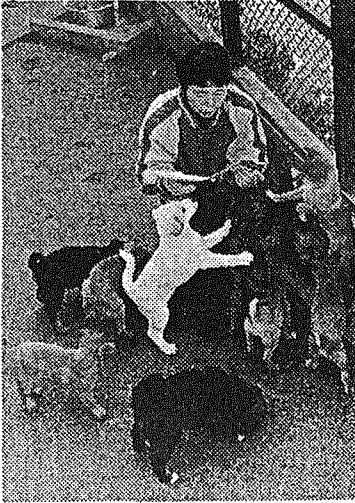
答える。

救護センターの三代子さんは

「ここをやっていることは本当

る。①センターと同じくそれ以上の条件で飼える②必ず避妊手術をうける③もらい受けてから後も協会の訪問があり、飼育状況のチェックをうける④これらを書いた念書を交わす。また、同協会阪神支部は避妊・去勢手術の助成金を3千円から5千円の範囲で出している。対象は会員に限っていない。以上の問い

合わせは(06)33911へ。



子犬たちにエサをやる三代子さん

西宮市北山町の救護センターで